板書例

2　**第四段**〈行為・展開〉

・電話で総理大臣（中央コンピューター・システムによる合成・バーチャルな総理大臣）を呼び出してたずねた。
・総理大臣「青はまことに美しい色であります」
　　↓牧水の短歌が好き・美しい短歌と答える。
＊若山牧水の短歌「白鳥は哀しからずや」→白鳥は哀しいのか？
「空の青、海のあをにも染まずただよふ」
　　↓白いのは自分だけ・孤独？それとも孤高？
・僕「青がなくなってしまったんですよ」と怒鳴った

・総理大臣「かたちあるものは必ずなくなる」と言い聞かせるように僕に言った
「好き嫌いに関係なく歴史は進む」
「何かがひとつなくなったら、また新しいものをひとつ作ればいい」
「その方が経済的」
・僕はわけがわからないままどこまでも歩き続ける
　　↓納得できないが反論もできない
・みんなが歓声をあげる・新年になり新しいミレニアムがやってきた・誰も消えた青のことなんか気にしていない

でも青がないんだ、と僕は小さな声で言った。
そしてそれは僕が好きな色だったのだ↓ゴチック体で強調・断定
＊僕と周囲の人々との対照性はいっそう明確になりつつ終了する。
＊僕が強く訴えたいことは何だったのか。